

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

本宮二中学区「自己マネジメント力」の育成

本宮市立岩根小学校・五百川小学校

家庭学習の習慣はおおむね身に付いているが、学習内容や取り組み方については個人差が見られる。児童の実態に応じながら「自己マネジメント力」を育むために、児童が自ら学びたいという思いを大切にしたい指導を継続し、家庭との連携を図ってきた。

取組のねらい

「自己マネジメント力」の育成に向けて

家庭学習につながるように授業の終末を工夫したり、自分の学習を見つめ直す時間（振り返り）を設けたり、さらには友達と高め合いながら学習したりと、R-PDCA サイクルを通して、自分で学習や生活を改善する力を育むことができるようにしてきた。

取組の内容

児童の思いや姿勢を認める教師の励ましの言葉

できるだけ毎日児童のノートに励ましの言葉を記入し、日々の学習を価値付けてきた。周囲と比べた評価ではなく、一人一人に応じて良かった内容や工夫したところは褒め、改善が必要なところは具体的なポイントを示し、次の家庭学習につながるような言葉で励まし続けてきた。また、自分ができるようになったこと、次に意識したいこと、工夫したことなど最後に振り返りを書くことで、児童が自らの取組を見つめ、次の学びに生かそうとする意識付けにつなぎ、その姿勢を大いに認め価値付けてきた。

家庭でできる具体的な取組を紹介

「家庭学習スタンダード」や「家庭学習の手引き」を年度当初に家庭に示し、学習環境づくりや進め方について共通理解を図ってきた。さらに、長期休業前に発行した保護者向けの「学びっこ便り」では、再度「家庭学習スタンダード」の内容を紹介し、長期休業中の児童の学習の仕方について啓蒙を図った。また、別号では「自己肯定感」と「生活習慣」は学力に大きく関係していることを紹介した。学校と家庭の両方向から子どもを褒めて自己肯定感へつなげたり、福島県教育委員会から示されている生活習慣チェックシートを使って日々の生活を見直したりと、家庭でできる具体的な方法を発信してきた。

また、家庭学習チェックカードや自己マネジメント力アップカードなどを活用し、自己の学習の取り組み方を見直したり、保護者の方にも確認してもらったりと、学校と家庭での連携を大いに図ってきた。

夏休みの家庭学習では、ぜひ「R-PDCA サイクル」を！

いよいよ7月21日（土）から、子ども達が楽しみにしている夏休みが始まります。「楽しい夏休みになりたいな」「どんなことにチャレンジしようかな」と、子ども達は期待に胸を膨らませていることと思います。一方で、「夏休みの宿題が大変だな」「今年こそは計画通り進めたいな」と、こんな心の声が出てきそうですね。ご家庭でのお子様の家庭学習の取り組み方はいかがでしょうか。福島県では「家庭学習スタンダード」を活用して、自己マネジメント力を育てていきましょう。という取り組みを行っています。「自己マネジメント力」とは、「R-PDCA サイクル」を通して、自分で学習や生活を改善する力のことです。「Research 自分を知る」「Plan 計画する」「Do 自ら学習する」「Check 確かめる」「Action 見直す」の頭文字から、名前が付けられました。裏面には「家庭学習スタンダード R-PDCA サイクル」の資料を載せています。ぜひこの夏休みに、お子様と一緒に家庭学習をふり返ってみませんか？



子どもの学習につながる家庭の協力について
「心の支え」「環境づくり」「習慣づくり」

平成30年度 家庭学習チェックカード 4～7月

チェック項目	4月	5月	6月	7月
学習する場所を整えている。				
正しい姿勢で学習している。				
目標を持って学習している。				
計画を立てて学習している。				
学習する時間を決めていく。				
集中して学習している。				
課題以外の学習もしている。				
苦手な教科も学習している。				
様々な分野の本を読んでいる。				

家庭学習チェックカード

自己マネジメント力アップカード

① 自分で定めた学習、手帳の計画を立てて、実行する力をつけて、自分でマネジメントできるか？

生活習慣のめやす
学習：()
睡眠：()
食生活：()
運動：()

家庭学習記録シート
月別 1ヶ月学習スタート

項目	特に記入したいこと

自分の学習記録
4月～7月 学習記録
5月～7月 学習記録
6月～7月 学習記録

自分の学習記録
4月～7月 学習記録
5月～7月 学習記録
6月～7月 学習記録

自己マネジメント力
アップカード

実践して見えてきたこと

児童の意識の芽生え

児童の家庭学習ノートの内容に大きく変化が見られた。例えば、下学年において、間違えた問題の復習に取り組んだり、計算や漢字で間違えたところに印やキーワードをつけて学びを深めたりするノートが見られた。また、上学年ではテスト前に復習をしたり、自分の苦手な教科を把握して進んで取り組んだりと自己をマネジメントする姿勢がノートに表れてきた。また、児童も「自己マネジメント」と自ら言葉を使うようになり、学校と家庭と連携した取組が、自己マネジメントの育成につながっている。

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

本宮二中学区「自己マネジメント力」の育成

本宮市立本宮第二中学校

家庭学習の習慣を身に付けているが、内容と取り組む姿勢に個人差が見られる。生徒の実態に応じながら「自己マネジメント力」を育むために、生徒同士の関わりから自己改善へと繋ぐことを目指した「自己マネジメント力向上プロジェクト」を実践している。

取組のねらい

「自己マネジメント力」の育成に向けて

本宮第二中学校では、「自己マネジメント力向上プロジェクト」を実践している。R-PDCAサイクルを通して、家庭学習の習慣や環境作りを行う実践である。級友や先輩・後輩などからの影響が大きくなり、自我が確立する中学生の発達段階を鑑みて、生徒同士の関わり合いを通して自己改善へと繋げていこうという実践である。

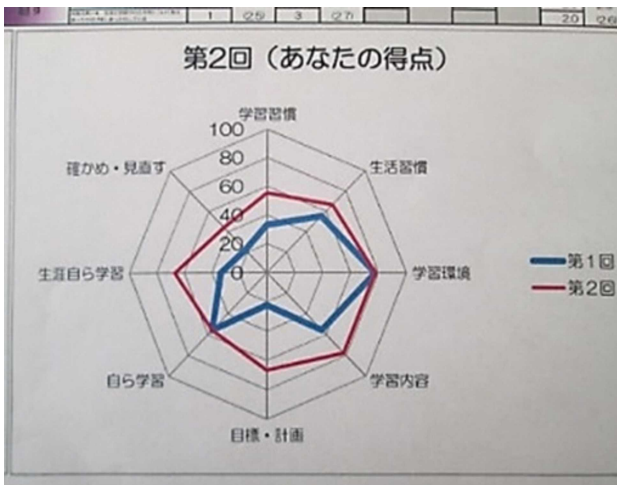
取組の内容

アンケートを通して、自己を振り返る

家庭での生活や学習について、「学習習慣」、「生活習慣」、「学習環境」、「見直す」、「学習内容」、「目標と計画」、「自ら学習」、「生涯自ら学習」の8つの指標からアンケートを実施する。レーダーチャートにまとめた個人の結果と学級の結果をもとに自己の振り返りを行う。

級友との話合い・先輩や後輩の実践をきっかけに、家庭学習の改善を図る

級友との話合いから、助言や励ましをもらい、自分の気付きをもとに「私の宣言」という形でこれからの実践事項をまとめる。また、全校集会での先輩や後輩の実践を聞き、家庭学習への意識を高める。



【レーダーチャート…個人の結果】



【私の宣言…廊下への掲示】

実践して見えてきたこと

家庭学習への取組を共有したことで、頑張りに対して認め合う雰囲気醸成される

このプロジェクトを全校で行っていることで、個々の頑張りが発信される機会が確実に増えている。また、互いの頑張りを認め合う雰囲気が醸成されており、学級や学校の雰囲気が確実によくなっているなど、学級経営にも好影響を与えている。

生徒同士の関わりから、保護者との関わりへ

学校では、家庭に戻ると意欲が減少してしまう生徒が一定数存在した。来年度は、自己改善を図ろうとしている我が子を応援する形で、保護者との連携を強化したい。学校で意欲付け・動機付けを行い、家庭で励ますという構図が中学生の発達の段階には有効だと考える。